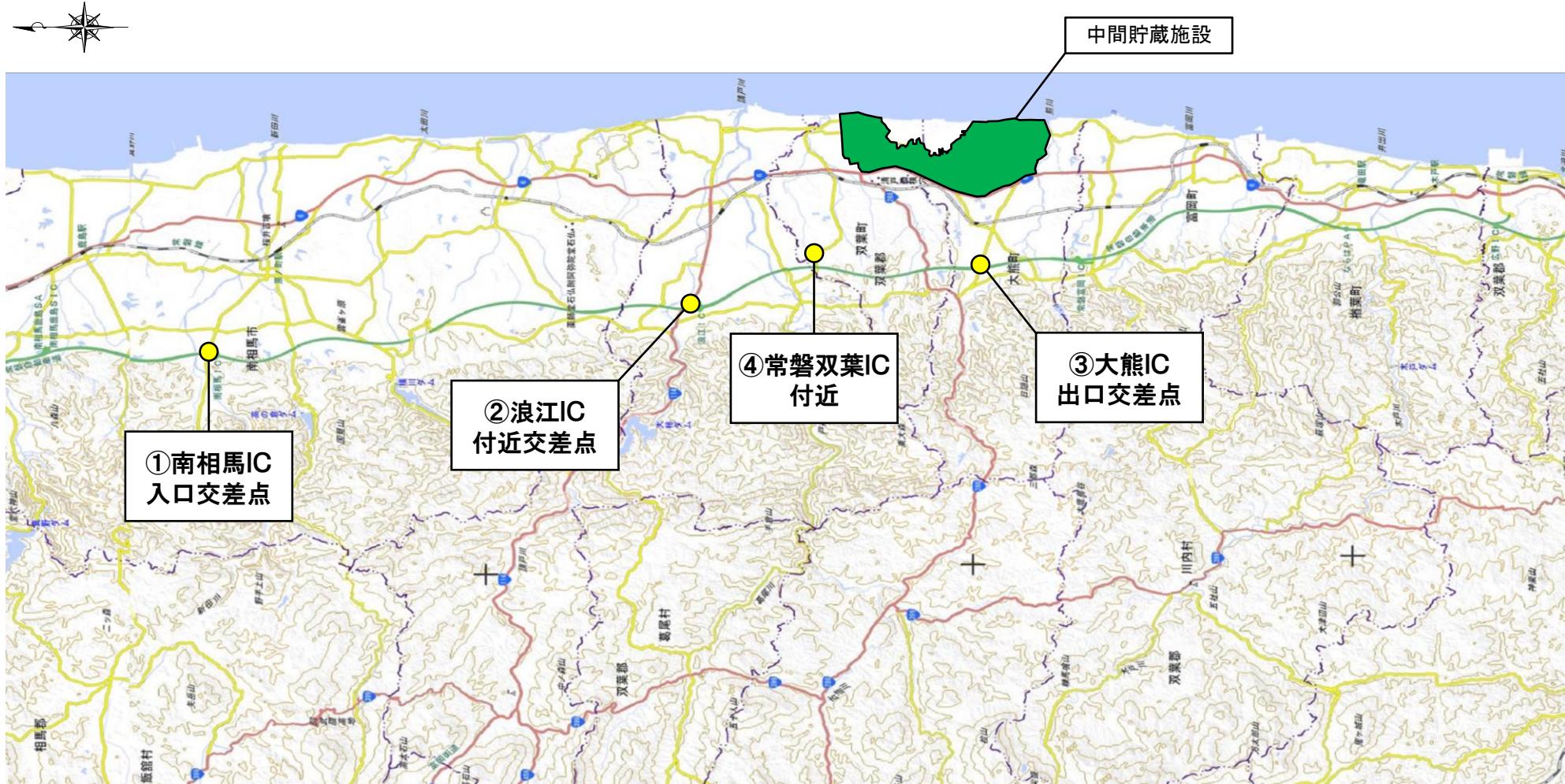


# 輸送路における放射線量率の測定地点

輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



# 輸送路における放射線量率の測定結果

測定地点	当該地点を通過した輸送車両数 [台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの[台] <sup>※1</sup>	(参考)当該地点の空間線量率 [ $\mu\text{Sv}/\text{h}$ ]	(輸送車両通過時)		
				追加被ばく線量率(瞬間最大値) [ $\mu\text{Sv}/\text{h}$ ] <sup>※2</sup>	線量率の増加が観測された時間(累積) [分] <sup>※2</sup>	追加被ばく線量(累積) [ $\mu\text{Sv}$ ]
①南相馬IC	2,038	45	0.10	0.03	6.7	0.002
②浪江IC <sup>※3</sup>	989	13	0.21	0.03	1.7	0.0008
③大熊IC	1,237	6	0.18	0.01	0.67	0.00007
④常磐双葉IC	4,621	100	0.68	0.02	30	0.008

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値+標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 測定は20秒単位。

※3 ICにおける降車と乗車の輸送車両を対象としている。

## 輸送路における放射線量率の測定結果(2025年4月～12月)

### ＜評価＞

輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。